

令和4年度 政策（政策の柱）評価調査

分野 (大項目)	人・地域	政策の柱 (中項目)	ふるさとの歴史・文化の発信と継承	政策 コード	3(4)
関係部局	総務部	環境生活部	教育委員会		

【政策の概要】

■北海道独自の歴史・文化の発信と次代への継承 【3(4)A】

- 2020（令和2）年のウポポイの開設などを契機にしながら、北海道アイヌ政策推進方策（2021（令和3）年策定）に基づきアイヌ文化の保存・伝承を促進し、アイヌ文化の振興を図るとともに、アイヌの人たちの歴史や文化に関する正しい理解の促進に取り組みます。
- 北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録を契機とし、北東北3県とさらなる連携を図るとともに、行政、地域住民、民間事業者等の各主体が相互に連携し、登録による効果を地域の賑わいの創出につなげます。
- 北海道博物館を核として地域の博物館などとも連携し、本道ならではの歴史や文化を発信する取組を推進し、次代に継承します。
- 小・中学校において、子どもたちが北海道の自然や文化、観光産業等の教育資源を活用した学習活動を通して、北海道についての理解を深め、郷土に対する誇りや愛着を育む、教育の充実を図ります。

■先人から受け継いだ財産を活かした新たな展開 【3(4)B】

- 道民共有の貴重な財産である「赤れんが庁舎」の積極的な活用を図るとともに、芸術文化・観光の情報発信拠点として機能向上を図ります。

■生活に潤いと豊かさをもたらす芸術文化の振興 【3(4)C】

- すべての道民が、生涯を通じて文化に親しむことのできる環境づくりを進めるため、市町村や関係機関と連携しながら、芸術文化活動へ参加する機会や芸術鑑賞といった文化に触れる機会などの充実を図ります。
- 地域における文化活動を促進するため、若手芸術家などの活動支援や地域の文化活動を支える人材の育成に取り組みます。
- 著名な漫画家を数多く輩出している本道の優位性を活かし、「まんが・アニメ王国ほっかいどう」を内外に積極的に発信し、まんが文化の振興やコンテンツ関連産業の育成を図ります。
- 美術文化の中核として道立近代美術館の国内外への発信や機能強化を図り、官民連携も視野に入れた魅力のある施設整備に取り組みます。

【社会経済情勢（現状・課題）】

・アイヌの人たちは長い歴史の中で民族として独自の伝統や文化を培ってきたが、伝承者の高齢化などからアイヌ語やアイヌ文化の保存・伝承が急がれる状況にあることから、アイヌ文化を次世代に継承することができるよう、その保存・伝承を促進し、**アイヌ文化の一層の振興を図るとともに、道民への理解の促進を図る施策を推進する必要がある。**

- ・伝承者の高齢化などからアイヌ語やアイヌ文化の継承・保存が急がれる状況にある。
- ・文化財の指定の推進や維持管理、活用の取組を行ってきたが、**活用方針に課題**が見られる。
- ・文化財保護法の改正に伴い、令和2年8月、文化財保存活用大綱を策定した。
- ・**道内の美術館・歴史博物館は、地域振興の核として、関係機関との連携・協働による多様な鑑賞機会の充実や人々の交流促進により、施設の魅力を高め、地域文化の振興に取り組む必要がある。**

【縄文】

- ・**縄文遺跡群の有する魅力を伝えるための受入体制やコンテンツが不足**している。
- ・コロナ禍で当面、遺跡への来訪者の増加は見込めない状況であるが、ポストコロナを見据え、**遺跡群の価値や魅力を発信する取組を進める必要がある。**

【ふるさとの歴史・文化(北海道博物館)】

- ・人びとの生活意識や価値観の多様化などにより、物質的・経済的な豊かさだけでなく、**日常の暮らしの中にゆとりや潤いといった心の豊かさが一層求められるようになり、文化に対する関心や期待の高まりがある**ことなどから、**本道ならではの歴史や文化を継承、発信する取組を推進する必要がある。**

【道みんの日の啓発】

- ・「北海道みんなの日条例」で定めた“北海道みんなの日”に関する取組は、年々広がりつつあるものの、まだ十分に定着したとは言えない状況にある。

- ・重要文化財である「赤れんが庁舎」については、様々な活用が期待されている。
- ・**赤れんが庁舎**は、1968（昭和43）年に復原改修を行って以来、**建物や設備の老朽化が進んでいる**ほか、耐震対策やバリアフリー対策など、改善すべき課題がある。

- ・文化に対する関心や期待が高まる一方、新型コロナウイルスの影響による活動機会の減少により地域の文化芸術活動は厳しい運営状況が続いている。

- ・**道内の美術館・歴史博物館は、地域振興の核として、関係機関との連携・協働による多様な鑑賞機会の充実や人々の交流促進により、施設の魅力を高め、地域文化の振興に取り組む必要がある。**（再掲）

- ・文化に対する関心や期待が高まる一方、新型コロナウイルスの影響による活動機会の減少により地域の文化芸術活動は厳しい運営状況が続いている。（再掲）
- ・文化芸術活動団体や個人に対する支援の取組を推進する必要がある。

分野 (大項目)	人・地域	政策の柱 (中項目)	ふるさとの歴史・文化の発信と継承	政策 コード	3(4)
関係部局	総務部	環境生活部	教育委員会		

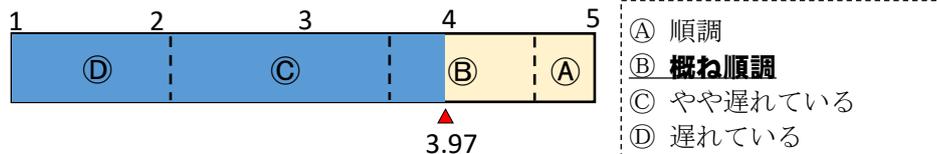
【政策を構成する施策の評価結果】

小項目名	施策コード	施策名	総合判定
A 北海道独自の歴史・文化の発信と次代への継承	0314	アイヌ文化の振興	順調
	1113	芸術文化活動の推進	概ね順調
	0315	北海道独自の歴史・文化の発信と継承	順調
B 先人から受け継いだ財産を活かした新たな展開	0106	赤れんが庁舎の利用促進	判定不可
	0316	地域における文化・芸術活動の振興	やや遅れている
C 生活に潤いと豊かさをもたらす芸術文化の振興	1113	芸術文化活動の推進	概ね順調
	0316	地域における文化・芸術活動の振興	やや遅れている

【成果指標の達成状況】

施策コード	指標名	過年度①	過年度②	評価年度	評価年度目標値	達成率
0314	「アイヌ民族が先住民族であること」の認知度	-	-	88%	88%	100.0%
	「アイヌの人たちが独自の伝統や文化を培い、伝えていること」の認知度	-	-	88%	86%	102.3%
0315	世界遺産所在市町の観光入込数	-	-	-	15,430千人	-
	北海道博物館の利用者満足度	93.7%	90.9%	100.0%	80.0%	125.0%
1113	国及び北海道が指定する文化財の数	337	341	343	341	100.6%
	文化財保護強調月間に文化財活用事業を実施した市町村の割合	56.6%	70.1%	80.5%	64.0%	125.8%
	道立美術館等の入館者数	816,926人	335,549人	434,335人	800,000人	54.3%
0106 0316	赤れんが庁舎入館者数(令和6年度まで工事)	689,580人	695,905人	-	810,000人	-
0316	北のまんが大賞応募作品数	101	264	180	85	211.8%
	アートシアター鑑賞事業の参加者数(文化財回実施事業)	-	-	3,735人	12,000人	31.1%
0316	赤れんが庁舎入館者数	689,580人	695,905人	-	-	-
	北のまんが大賞応募作品数	101	264	180	85	211.8%
	アートシアター鑑賞事業の参加者数(文化財回実施事業)	-	-	3,735人	12,000人	31.1%
1113	国及び北海道が指定する文化財の数	337	341	343	341	100.6%
	文化財保護強調月間に文化財活用事業を実施した市町村の割合	56.6%	70.1%	80.5%	64.0%	125.8%
	道立美術館等の入館者数	816,926人	335,549人	434,335人	800,000人	54.3%

【施策評価の総合判定の平均点(参考)】



【補助指標の状況】

施策コード	指標名	過年度①	過年度②	評価年度	評価年度目標値	達成率
0316	文化会館入場者数	46万人	40万人	41万人	48万人	85.4%
0316	文化会館入場者数	46万人	40万人	41万人	48万人	85.4%

分野 (大項目)	人・地域	政策の柱 (中項目)	ふるさとの歴史・文化の発信と継承	政策 コード	3(4)
関係部局	総務部	環境生活部	教育委員会		

【その他の統計数値など】

施策コード	統計数値等	数値の推移や分析結果など			
		過年度①	過年度②	最新年度	分析等
0314	ウポポイの来場者数	-	222,794 (R2)	190,618 (R3)	コロナ影響等により減少
	アイヌの人たちが独自の伝統や文化を培い、伝えていることを知っているか (R3北海道の人口減少などに関する意識調査)	「知っているが興味はない(48.9%)」「知らないし興味はない(2.8%)」の合計が5割を超える(51.7%)			
0315	伝統的文化団体(書道、華道、茶道、伝統芸能等)の数	1,838	1,736	1647 (R3)	減少傾向
	北海道博物館の入館者数 (令和4年度北海道博物館事業経過報告(後期))	総合展示室 78,579 特別展示室 69,388	43,664 18,086	36,121 (R3) 22,056 (R3)	コロナ影響等により減少
0106	赤れんが改修事業への寄付件数	29 (R1)	82 (R2)	102 (R3)	増加傾向
	赤れんが改修事業への寄付金額(千円)	9,266 (R1)	3,063 (R2)	61,166 (R3)	増加傾向
0316	文化活動の実践機会への満足度(%)	(R3より調査開始)		20.3 (R3)	全国平均21.2%
	公立文化会館の稼働率(%) 3年毎調査		83.0 (H30)	R3調査中	H30全国平均79.4%
	文化芸術イベントを直接鑑賞した割合(%)	61.3	38.6	32.7 (R3)	R1全国平均67.3%
	地域の文化的な環境に関する満足度(%)	31.8	37.1	31.0 (R3)	R3全国平均32.1%

【評価に当たっての論点】

<p>■北海道独自の歴史・文化の発信と次代への継承</p> <ul style="list-style-type: none"> アイヌ文化 ⇒ ウポポイ開業を契機とする体験・体感機会の拡大、情報発信の強化など認知の深化 北海道・北東北の縄文遺跡群、北海道博物館 ⇒ 普及・活用に向け来場・入場者数の増加が重要 文化財指定 (R3:343) ⇒ 保存に加え、活用も重視した持続的な取り組みの強化 <p>■先人から受け継いだ財産を活かした新たな展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 赤れんが庁舎 (R6年度まで工事) ⇒ 工事期間を好機と捉えた価値を伝える情報発信 <p>■生活に潤いと豊かさをもたらす芸術文化の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> 芸術文化活動参加・鑑賞、活動人材の育成 ⇒ 文化等の定義付けとそれらに触れる機会の充実 まんが・アニメ ⇒ 文化・観光振興のツールとして活用、コンテンツ産業振興など幅広い効果の波及
--

【政策目標の達成に向けた判定】

効果的な取組を検討

・順調に展開
・概ね順調に展開
・効果的な取組を検討
・見直しや改善が必要

いずれかの評価を付ける

【政策の柱に対する意見 (今後に向けた意見)】

<p>【取組の方向性】</p> <p>■北海道独自の歴史・文化の発信と次代への継承</p> <p>○2020年7月のウポポイ開設や東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機とした情報発信などによりアイヌ文化の振興を図る取組が進められているが、道実施の意識調査によるとアイヌ文化に興味がないとの回答も多いことから、アイヌ文化の認知度向上や興味を持つ人の増加に向け、更に取組を進める必要がある。また、世界遺産である縄文遺跡群のほか、赤れんが庁舎など道内の文化財の適正な保存・活用や北海道博物館の展示内容等の充実など、北海道独自の歴史・文化の発信と理解の促進に一層取り組む必要がある。</p> <p>■先人から受け継いだ財産を活かした新たな展開</p> <p>○赤れんがの改修工事は多額の費用を投入し、大規模かつ長期にわたり実施するものであり、リニューアル工事に伴って赤れんがの歴史的価値や当時の建築技術などを発信する好機であることから、工事状況の展示や工事費用の寄付募集などを通じ、道民理解の促進に努める必要がある。</p> <p>■生活に潤いと豊かさをもたらす芸術文化の振興</p> <p>○地域における文化・芸術の振興に向けては、地域の活性化や潤いと豊かさの実感が欠かせないことから、道として改めて、文化等について定義するとともに、文化に触れる機会の充実を図るための文化会館の活用、文化関係団体と連携した取組の強化、地域における文化の担い手の確保など、地域での芸術・文化活動の更なる促進を図る必要がある。</p> <p>【意見 (政策の柱)】</p> <p>◎「ふるさとの歴史・文化の発信と継承」は、構成する施策の成果指標による判定では「概ね順調」となるが、アイヌ文化や北海道・北東北の縄文遺跡群、赤れんが庁舎、その他の数多く残る文化財による北海道独自の歴史・文化の発信と継承や、地域における芸術文化の振興に当たっては、地域の活性化や生活の潤いや豊かさの実感が欠かせないことから、文化等に関する価値や意義について道民と共有するなどの側面にも留意しながら、活動・参加、鑑賞などの文化等に触れる機会や発信内容の充実、保存・活用に向け、効果的な取組を検討する必要がある。</p>
